

信じて待つ覚悟持つて

十人十色

5

子どもたちの今

オンラインで全国の保護者が子育ての悩みや不安などを話し合う「子育て応援カフェ」を4月に開きました。そこでは「我が子の『やる気のスイッチ』を探し、押そうと必死になるが、なかなか見つからず疲れてしまう」「親がスイッチを探そうとするほど、子どもの気持ちが悪くなるよう不安」といった声が寄せられました。

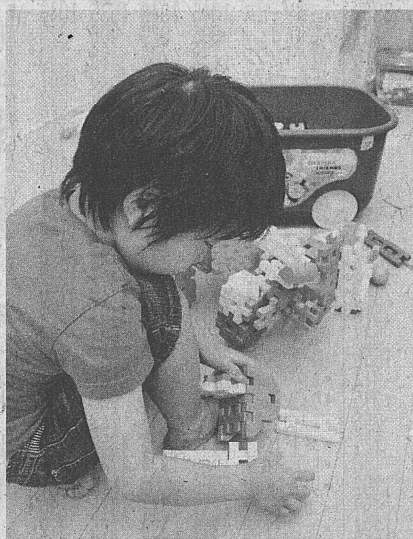
これは保護者に限りません。教員や塾の講師も、子どもをやる気にさせようと必死になるあまり、子どもの心が離れ、反抗

やる気のスイッチ 押せるのは誰？

的になったり、かたくなになったりしてしまった経験を持つ人は少なくないでしょう。

ここで重要なのは「やる気のスイッチは子ども自身が持っている」ということです。

▽勉強はすぐ飽きるけれど、ゲームにはずっと集中している▽お手伝いはしなくていいけれど、自分の部屋はまめに掃除する▽先生が薦めた本は読まないけれど、自分で選んだ本は何回も読む▽親が言うことはやらない



ブロックで夢中になって遊ぶ子ども

れど、自分で決めたことはやれる――。そんな態度に思い当たる節はないでしょうか。「好きこそものの上手なれ」のことわざ通り、興味のあるものにはやる気が湧き、熱心に努力するの得上達も早いのです。

大人は心配や期待から、学校生活や友だち関係、勉強や習い事などに何かと口を出しがちですが、大人が尋ねたり指示をしたりし続けると、子どもは反応することに必死になり、自分で自分のことを考えるゆとりがなくなり、好きなことに没頭し、失敗も含めて自分で考えることが、成長につながります。

大人が出来ることは、子どもが自分と向き合える環境を整えること。とやかく言わず、指示や質問は必要最低限に絞る。子どもを信じて待つ覚悟が問われます。

(発達支援教室アットスクール 代表 鈴木正樹)